

令和3年度

掛川市・袋井市病院企業団
病院事業会計決算審査意見書

掛川市・袋井市病院企業団監査委員

掛袋病企監第5号
令和4年6月28日

掛川市・袋井市病院企業団
企業長 宮地正彦様

掛川市・袋井市病院企業団

監査委員 山下一夫

監査委員 久永豊彦

令和3年度掛川市・袋井市病院企業団病院事業会計
決算の審査意見について

地方公営企業法第30条第2項の規定により審査に付された令和3年度掛川市・袋井市病院企業団病院事業会計決算及び附属書類を審査したので、次のとおり意見を提出する。

目 次

第1 審査の対象	-----	1
第2 審査の期間	-----	1
第3 審査の方法	-----	1
第4 審査の結果及び意見	-----	1
1 審査の結果	-----	1
2 審査の意見	-----	2
第5 決算の概要	-----	3
1 業務の執行状況	-----	3
2 予算の執行状況	-----	6
3 経営成績の状況	-----	9
4 財政の状態	-----	16
5 未処分利益剰余金の処理について	-----	17
第6 キャッシュ・フロー計算書	-----	18
第7 参考資料（附表1～3）	-----	20

注記

- 1 金額は、原則として千円単位で表示し、単位未満は百円単位を四捨五入したため、合計と内訳の計が一致しない場合がある。
- 2 比率(%)は、原則として小数点以下第2位を四捨五入したため、構成比の合計と内訳の計が一致しない場合又は決算書その他の書類と一致しない場合がある。なお、99.95%～99.99%の場合は、99.9%と表示した。
- 3 各表中の符号の用法は、次のとおりである。
 - (1) マイナスは「△」と表示した。
 - (2) 該当数値のないものは「-」と表示した。
 - (3) 該当数値はあるが、単位未満のものは「0.0」と表示した。

令和3年度掛川市・袋井市病院企業団 病院事業会計決算審査意見

第1 審査の対象

令和3年度 掛川市・袋井市病院企業団病院事業会計決算

第2 審査の期間

令和4年5月23日から同年6月28日まで

第3 審査の方法

掛川市・袋井市病院企業団企業長から審査に付された決算書及び附属書類について、財務会計上の合計上の合規性の検証に加え、事務事業が経済的かつ効率的に執行されているか等に主眼を置き、通常実施すべき審査手続を実施した。

また、計数の確認、関係諸帳簿との照合等を行うとともに、関係職員の説明を聴取した。

第4 審査の結果及び意見

1 審査の結果

審査に付された当年度の決算書及び附属書類は、いずれも関係法令に準拠して作成されており、関係諸帳簿及び証拠書類といずれも符合し、適正であると認められた。

(1) 業務実績

1日平均入院患者数は、前年度比18.1人（5.0%）増の376.8人となり、病床利用率は、前年度比3.7ポイント増の75.4%となった。また、1日平均外来患者数は、前年度比20.6人（1.9%）増の1,130.8人となった。

患者1人当たりの診療単価は、入院が前年度比1,751円増の7万3,740円、外来が前年度比2,068円増の1万7,578円となった。増加要因は、手術件数や高額薬剤の使用の増等である。

一方、医師1人当たりの診療単価は、前年度比3万5,795円増の46万1,258円となった。

(2) 経営成績

医業収益は、新型コロナ感染症の影響があったものの、紹介患者の受入れを積極的に行うとともに、後方病院と連携した退院促進など在院日数の短縮化や回転率の向上を図った結果、外来と入院のいずれも増加し、前年度から14億3,276万7千円（9.8%）増の160億1,702万5千円となった。

医業費用は、前年度から8億726万1千円（4.9%）増の172億9,836万6千円となった。増加要因は、外来化学療法など高額な薬剤を使用する患者の増加や手術件数の増加による材料費の増等である。その結果、医業損益は、12億8,134万2千円の損失となった。

経常損益は、収益225億1,949万2千円に対し、費用は182億3,353万2千円となり、経常利益は42億8,596万円となった。これに特別利益2,170万3千円を加え、過年度分診療報酬の修正、固定資産売却損等による特別損失866万5千円を差し引いた当年度純利益は、42億9,899万8千円となり当年度未処分利益剰余金は、39億3,676万1千円となった。なお、経常利益が生じた要因は、新型コロナウイルス感染症関連の補助金49億5,480万2千円である。

(3) 財政状態

本年度末の資産合計は、前年度比35億6,117万2千円（16.4%）増の252億2,714万7千円となった。これは、主に新型コロナウイルス感染症関連の補助金の増加によるものである。負債合計は、前年度比7億6,202万9千円（3.7%）減の198億6,657万7千円となった。うち企業債は、前年度比10億3,525万1千円の減で、未償還残高は148億298万円となった。資本合計は、純利益の大幅な増等により、前年度から43億2,320万2千円増の53億6,057万円となった。

2 審査の意見

令和3年度は、新型コロナ感染症対策と通常診療確保の両立が求められる1年であった。

通常業務に加え、ワクチン集団予防接種や県指定の宿泊療養ホテルの運営支援に当たり、感染拡大の抑止と重症化の防止に努めた。また、第5波による感染拡大の際には、8月30日に院内緊急事態宣言を発令して独自に災害対策チームを立ち上げ、24時間体制で対応に当たり、1月以降の第6波による変異株感染拡大の際には、院内感染に細心の注意を払いながら医療提供体制の維持に努めた。日々変化する状況の下、全職員が一丸となり、この難局に立ち向かわれたことを高く評価したい。

このような状況の下、本年度における決算状況を総括すると、医業収益は、患者数が入院・外来ともに増加した結果、前年度から約10%の增收となったが、医業費用を貯い切れず、医業損益は、前年度から6億2,550万6千円改善したものの、12億8,134万2千円の赤字となった。

また、本年度から報告が義務付けられた経営指標によれば、医業費用に対する医業収益の割合を示す修正医業収支比率は90.7%で、コロナ禍前の水準には回復しておらず、病床利用率も75.4%にとどまり、コロナ禍前を下回っている。一方で、経常収益は経常費用を大きく上回り、経常収支比率は、前年度を16.4%上回る123.5%となった。その結果、病院事業全体で約43億円の純利益を計上したが、これは主に49億5,480万円余りの新型コロナ感染症関連補助金という特殊要因によるものであり、経営は依然として極めて厳しい状況にあると言わざるを得ない。今後は、医業収益のさらなる増加に努めるとともに、感染状況や診療材料価格等の推移を見極めつつ徹底した経営の効率化と経費節減に取り組み、安定的かつ健全な病院経営を着実に進めていただきたい。

最後に、新型コロナ感染者数は、ピークを越えて終息に向かい一つあるが、新規感染者が再び増加の兆しも見せており、予断を許さない。この2年間で蓄積した感染症対策に関する経験や知見を十分に生かし、引き続き地域医療提供体制の充実に注力するとともに、中東遠地域における基幹病院としての使命を果たされることを望む。

第5 決算の概要

1 業務の執行状況（第2条関係）

(1) 病床の利用状況

区分	令和3年度	令和2年度	比較増減	令和2年度県平均
病床数（床）	500	500	0	353
病床利用率（%）	75.4	71.7	3.7	73.0
平均在院日数（日）	9.1	9.0	0.1	15.5

(注)

- 1 病床数は500床、病床利用率は75.4%で、前年度から3.7ポイント増加した。増加要因は、感染症対策を徹底した上で入院患者の受入枠を拡充したためである。
- 2 平均在院日数は9.1日でほぼ前年度並みであった。

(2) 患者数の状況

(単位：人、%)

区分	令和3年度			令和2年度	増減	
	当初予定数	補正後	実績①	実績②	①-②	伸び率
延べ入院患者数 (診療実日数)	146,000 (365 日)	135,780 (365 日)	137,550 (365 日)	130,916 (365 日)	6,634 (0 日)	5.1
延べ外来患者数 (診療実日数)	278,300 (242 日)	271,040 (242 日)	273,650 (242 日)	269,787 (243 日)	3,863 (△ 1 日)	1.4
一日平均入院患者数	400.0	372.0	376.8	358.7	18.1	5.0
一日平均外来患者数	1,150.0	1,120.0	1,130.8	1,110.2	20.6	1.9

(注)

- 1 延べ入院患者数は、前年度から6,634人増の13万7,550人となった。増加要因は、後方病院等と連携した退院促進による在院日数の短縮化や回転率向上の取組等による。
- 2 延べ外来患者数は、前年度から3,863人増の27万3,650人となった。増加要因は、積極的に紹介患者を受け入れたこと等による。
- 3 患者数の多い診療科は、入院では、整形外科1万8,081人、循環器内科1万6,362人、呼吸器内科1万6,202人、外来では、内科4万4,005人、眼科1万9,224人、整形外科1万8,518人であった。
- 4 患者数が増加した主な診療科は、入院では、整形外科、脳神経外科、呼吸器内科、外来では、リハビリテーション科、皮膚科・皮膚腫瘍科、眼科である。増加要因は、リハビリテーション科の医師が赴任したことで、外来患者数が大幅に増加したことなどによる。

(参考資料)

地域別延べ患者数（入院・外来）

入 院

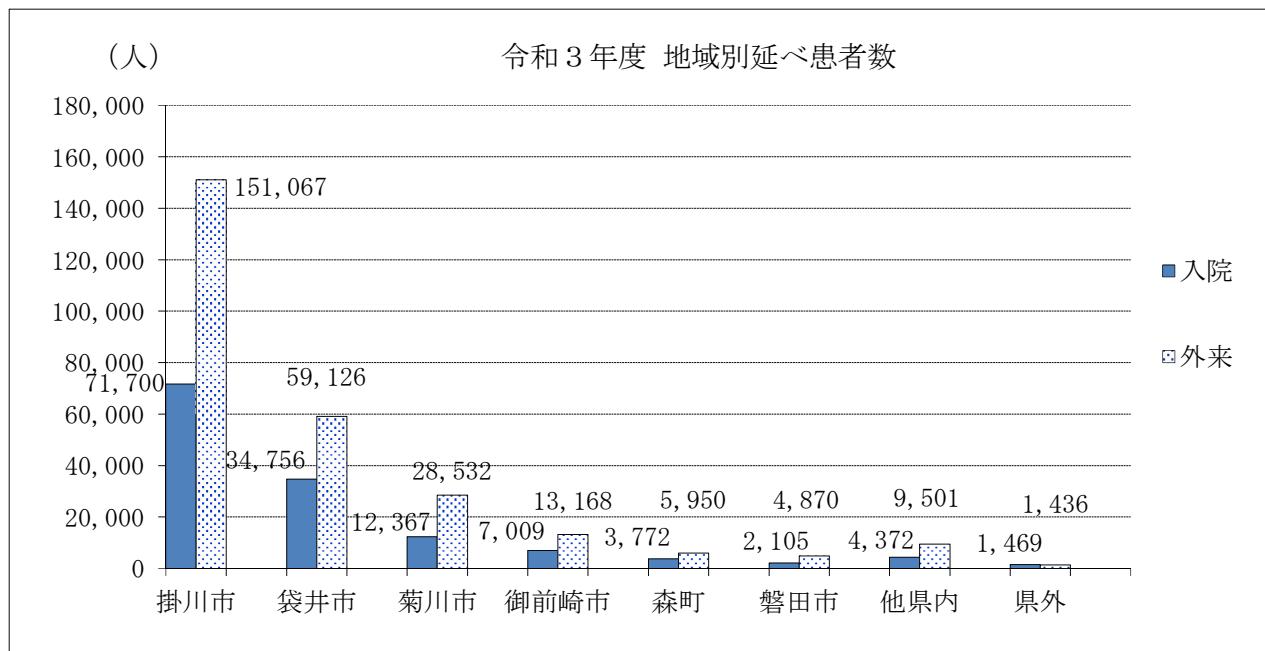
(単位：人)

	掛川市	袋井市	菊川市	御前崎市	森町	磐田市	他県内	県外	計
令和3年度	71,700	34,756	12,367	7,009	3,772	2,105	4,372	1,469	137,550
令和2年度	72,283	30,899	11,264	6,434	2,785	2,053	4,133	1,065	130,916
増 減	△ 583	3,857	1,103	575	987	52	239	404	6,634
伸び率	△ 0.8	12.5	9.8	8.9	35.4	2.5	5.8	37.9	5.1

外 来

(単位：人)

	掛川市	袋井市	菊川市	御前崎市	森町	磐田市	他県内	県外	計
令和3年度	151,067	59,126	28,532	13,168	5,950	4,870	9,501	1,436	273,650
令和2年度	152,735	56,863	26,748	12,553	5,620	4,453	8,970	1,845	269,787
増 減	△ 1,668	2,263	1,784	615	330	417	531	△ 409	3,863
伸び率	△ 1.1	4.0	6.7	4.9	5.9	9.4	5.9	△ 22.2	1.4



(3) 建設改良の執行状況（消費税含む）

ア 施設改良費 予算額 6,483万4千円 決算額 3,190万円

[主な施設改良費]

・ナースコールサーバー等購入工事 2,530万円

イ 資産購入費 予算額 4億285万1千円 決算額 3億5,502万4千円

[主な有形固定資産]

器械備品

・術中用X線撮影装置	5,126万7千円
・X線TV装置	2,999万7千円
・走査型超広角眼底撮影装置	1,952万5千円
・体外式膜型人工肺	1,644万5千円
・分娩監視装置	1,514万5千円
・血管撮影室用超音波画像診断装置	1,100万円

2 予算の執行状況（消費税含む）

(1) 収益的収入及び支出（第3条関係）

ア 収益的収入の執行状況

(単位：千円、%)

区分	予 算 額		決 算 額	執行率	増減額
	当 初	現 領			
第1款 病院事業収益	17,758,765	20,399,170	22,620,000	110.9	2,220,830
第1項 医業収益	16,251,461	15,850,241	16,086,836	101.5	236,595
第1目 入院収益	10,658,000	10,047,720	10,143,361	101.0	95,641
第2目 外来収益	4,397,140	4,743,200	4,812,884	101.5	69,684
第3目 その他医業収益	901,979	764,979	799,138	104.5	34,159
第4目 他会計負担金	294,342	294,342	331,453	112.6	37,111
第2項 医業外収益	1,507,303	4,548,928	6,511,338	143.1	1,962,410
第3項 特別利益	1	1	21,827	2,182,674.2	21,826

(注)

- 1 病院事業収益は、予算現額203億9,917万円に対し、決算額は22億2,083万円増の226億2,000万円で、執行率は、110.9%となった。
- 2 医業収益は、予算現額158億5,024万1千円に対し、入院収益が9,564万1千円の増、外来収益が6,968万4千円の増、他会計負担金が3,711万1千円の増で、総額で2億3,659万5千円の増となった。
- 3 医業外収益は、予算現額45億4,892万8千円に対し、決算額は、19億6,241万円増の65億1,133万8千円であった。増加要因は、新型コロナ感染症関連補助金、長期前受金戻入等による。

イ 収益的支出の執行状況

(単位：千円、%)

区分	予 算 額		決 算 額	執行率	不用額
	当 初	現 領			
第1款 病院事業費用	18,096,024	18,505,141	18,303,525	98.9	201,616
第1項 医業費用	17,290,595	17,708,682	17,540,544	99.1	168,138
第2項 医業外費用	771,647	762,677	754,315	98.9	8,362
第3項 特別損失	28,782	28,782	8,665	30.1	20,117
第4項 予 備 費	5,000	5,000	0	0	5,000

(注)

- 1 病院事業費用は、予算現額185億514万1千円に対し、決算額は、183億352万5千円で、2億161万6千円の不用額が生じ、執行率は、98.9%となった。
- 2 不用額の主なものは、次のとおりである。

(医業費用)

- ・材料費 7,569万5千円
- ・経費 4,844万3千円

(医業外費用)

- ・院内保育園運営費 724万1千円

(2) 資本的収入及び支出 (第4条関係)

ア 資本的収入の執行状況

(単位：千円、%)

区分	予 算 額		決 算 額	執行率	増減額
	当 初	現 領			
第1款 資本的収入	942,402	944,980	896,500	94.9	△48,480
第1項 企業債	200,000	85,700	84,600	98.7	△1,100
第2項 負担金	734,382	734,382	686,431	93.5	△47,951
第3項 貸付資金返還金	8,020	9,232	9,958	107.9	726
第4項 補助金	0	115,666	115,021	99.4	△645
第5項 固定資産売却代金	0	0	490	-	490

(注)

- 1 資本的収入は、予算現額9億4,498万円に対し、決算額は4,848万円減の8億9,650万円で、執行率は、94.9%となった。
- 2 企業債は、予算現額8,570万円に対し、決算額は、110万円減の8,460万円であった。
- 3 負担金は、予算現額7億3,438万2千円に対し、決算額は、4,795万1千円減の6億8,643万1千円であった。減少要因は、建設改良費の減額に伴い、両市からの繰入金が減少したことによる。

イ 資本的支出の執行状況

(単位：千円、%)

区分	予 算 額		決 算 額	執行率	不用額
	当 初	現 領			
第1款 資本的支出	1,591,378	1,601,087	1,508,125	94.2	92,962
第1項 建設改良費	455,006	467,685	386,924	82.7	80,761
第2項 企業債償還金	1,132,052	1,132,052	1,119,851	98.9	12,201
第3項 投資	4,320	1,350	1,350	100.0	0

(注)

- 1 資本的支出は、予算現額16億108万7千円に対し、決算額は、15億812万5千円で、9,296万2千円の不用額が生じ、執行率は、94.2%となった。
- 2 建設改良費の主な支出内容は、ナースコールサーバーの購入等である。
- 3 投資の支出内容は、看護学生修学資金貸付金である。

ウ 資本取支状況

資本的収入が資本的支出に不足する額6億1,162万6千円は、次の資金で補填されている。

- ・当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 150万2千円
- ・過年度分損益勘定留保資金 6億1,012万4千円

(3) 企業債の発行と償還状況（第6条関係）

（単位：千円、%）

区分	前年度末残高	本年度借入額	本年度借入利率	本年度償還額	本年度末残高
企業債	15,838,231	84,600	0.020	1,119,851	14,802,980

（注）本年度は、8,460万円を借り入れ、11億1,985万1千円を償還し、未償還残高は148億298万円となった。借入限度額は、医療機器等整備事業8,570万円、借入利率は、年5.0%以内と定められており、いずれも範囲内であった。

(4) 一時借入金（第7条関係）

一時借入金の限度額は15億円であるが、本年度は一時借入金は発生していない。

(5) 議会の議決を要する経費の流用（第9条関係）

職員給与費及び交際費は、議会の議決を経なければ流用することのできない経費であるが、本年度の流用はなかった。

(6) たな卸資産（第10条関係）

たな卸資産の購入限度額は43億5,990万6千円であるが、購入額は42億6,122万3千円であり、限度額の範囲内であった。

（内訳）

- ・薬品 22億9,476万3千円
- ・診療材料 19億6,646万円

3 経営成績の状況（消費税除く）

(1) 経営収支の状況

(単位：千円、%)

区分			令和3年度		令和2年度		増減額	伸び率		
			金額	構成比	金額	構成比				
経常収益	医業収益	医業収益 (1)	16,017,025	71.1	14,584,258	78.4	1,432,767	9.8		
		入院収益	10,142,937	45.0	9,424,493	50.6	718,444	7.6		
		外来収益	4,810,099	21.4	4,184,413	22.5	625,686	15.0		
		その他医業収益	732,536	3.3	685,541	3.7	46,994	6.9		
		他会計負担金	331,453	1.5	289,811	1.6	41,642	14.4		
	医業外収益	医業外収益 (2)	6,502,468	28.9	4,026,943	21.6	2,475,525	61.5		
		補助金	4,988,655	22.2	2,536,136	13.6	2,452,518	96.7		
		負担金交付金	708,226	3.1	739,809	4.0	△31,583	△ 4.3		
		長期前受金戻入	364,220	1.6	311,664	1.7	52,556	16.9		
	計 (A)		22,519,492	100.0	18,611,201	100.0	3,908,292	21.0		
経常費用	医業費用	医業費用 (3)	17,298,366	94.9	16,491,106	94.9	807,261	4.9		
		給与費	9,615,040	52.7	9,424,811	54.2	190,229	2.0		
		材料費	4,005,639	22.0	3,469,346	20.0	536,292	15.5		
		経費	2,370,752	13.0	2,312,885	13.3	57,867	2.5		
		減価償却費	1,241,329	6.8	1,226,980	7.1	14,349	1.2		
	医業外費用	医業外費用 (4)	935,166	5.1	886,982	5.1	48,184	5.4		
		支払利息及び企業債取扱諸費	215,124	1.2	223,557	1.3	△8,433	△ 3.8		
		雑損失	619,581	3.4	563,155	3.2	56,426	10.0		
	計 (B)		18,233,532	100.0	17,378,088	100.0	855,444	4.9		
特別収支	特別利益 (5)		21,703	0.1	286,226	1.5	△264,524	△ 92.4		
	特別損失 (6)		8,665	0.0	288,543	1.7	△279,878	△ 97.0		
医業損益 (1)-(3)=(C)			△1,281,342	-	△1,906,848	-	625,506	-		
経常損益 (A)-(B)=(D)			4,285,960	-	1,233,113	-	3,052,847	-		
当年度純損益 (D)+(5)-(6)=(E)			4,298,998	-	1,230,796	-	3,068,202	-		
前年度繰越欠損金 (F)			△362,237	-	1,593,033	-	△ 1,955,270	-		
減資額 (G)			0	-	0	-	0	-		
当年度未処分利益剰余金(E)+(F)+(G)			3,936,761	-	△362,237	-	4,298,998	-		
総収支比率 (A)+(5) / (B)+(6)			123.6		107.0		16.6			
医業収支比率 (1)/(3)			92.6		88.4		4.2			

(注)

- 1 医業収益は、高度医療を必要とする入院患者の増加等に伴い増加した。医業費用は、給与費及び材料費の増等により、増加した。
- 2 医業損益は、前年度比6億2,550万6千円増の12億8,134万2千円の損失となった。
- 3 経常損益は、前年度比30億5,284万7千円増の42億8,596万円となった。増加要因は、新型コロナウイルス感染症関連補助金の増加による。
- 4 経常損益に特別利益を加え、特別損失を差し引いた当年度純利益は、42億9,899万8千円となった。
- 5 当年度純利益に前年度繰越欠損金を加えた当年度未処分利益剰余金は、39億3,676万1千円となった。
- 6 医療業務活動の能率効果を測定する医業収支比率は、前年度比4.2ポイント増の92.6%となった。

(参考資料)

経常収支と繰入金決算額の推移

(単位 : 千円、%)

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比較増減
経常収益	17,148,444	16,894,562	16,700,332	18,611,201	22,519,492	3,908,292
うち医業収益①	15,466,714	15,325,054	15,352,792	14,584,258	16,017,025	1,432,767
経常費用	17,224,853	16,795,536	17,114,757	17,378,088	18,233,532	855,444
うち医業費用②	16,297,576	16,014,192	16,250,271	16,491,106	17,298,366	807,261
医業損益 ①-②	△ 830,861	△ 689,138	△ 897,479	△ 1,906,848	△ 1,281,342	625,506
経常損益	△ 76,410	99,026	△ 414,425	1,233,113	4,285,960	3,052,847

両市からの繰入金(3条)	861,079	1,214,271	1,007,589	1,029,620	1,039,679	10,059
繰入金を除く経常損益	△ 937,489	△ 1,115,245	△ 1,422,014	203,493	3,246,281	3,042,788
繰入金/経常収益(%)	5.0	7.2	6.0	5.5	4.6	△ 0.9

両市からの繰入金決算額の推移

(単位 : 千円)

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比較増減
両市からの繰入金	1,726,110	1,726,110	1,726,110	1,726,110	1,726,110	0
内訳	収益的収入(3条)	861,079	1,214,271	1,007,589	1,029,620	1,039,679
	掛川市	500,732	717,276	591,033	604,447	610,521
	袋井市	360,347	496,995	416,556	425,173	429,158
	資本的収入(4条)	865,031	511,839	718,521	696,490	686,431
	掛川市	519,259	307,174	430,791	417,115	410,630
	袋井市	345,772	204,665	287,730	279,375	275,801
						△ 10,059
						△ 6,485

(注) 次の経費は、地方公営企業法等により地方公共団体が負担することができるとされている。

- ・その性質上経営に伴う収入をもって充てることが適当でない経費
 - (例) 救急医療の確保、保健衛生行政事務に要する経費 など
- ・病院事業の性質上、能率的な経営を行っても、なおその経営に伴う収入のみをもって充てることが、客観的に困難であると認められる経費
 - (例) 病院の建設改良に要する経費、高度医療の経費 など

(2) 医業収益の状況

ア 患者の1人・1日当たりの診療収入（診療単価）

入院

算式	令和3年度		令和2年度		比較増減
入院収益(千円)	10,142,937		9,424,493		
年延入院患者数(人)	137,550	73,740 円	130,916	71,989 円	1,751 円

外来

算式	令和3年度		令和2年度		比較増減
外来収益(千円)	4,810,099		4,184,413		
年延外来患者数(人)	273,650	17,578 円	269,787	15,510 円	2,068 円

(注) 診療単価は、入院が前年度比1,751円の増、外来が前年度比2,068円の増となった。

イ 医師及び看護師の1人・1日当たりの診療収入（診療単価）

医師

算式		令和3年度		令和2年度		比較増減
入院	入院収益(千円)	10,142,937		9,424,493		
	年延医師数(人)	37,719	268,908 円	36,922	255,254 円	13,654 円
外来	外来収益(千円)	4,810,099		4,184,413		
	年延医師数(人)	25,007	192,350 円	24,584	170,209 円	22,141 円
入院+外来		461,258 円		425,463 円		35,795 円

(注) 入院、外来を合計した医師1人当たりの診療単価は、前年度比3万5,795円の増となった。

看護師

算式		令和3年度		令和2年度		比較増減
入院	入院収益(千円)	10,142,937		9,424,493		
	年延看護師数(人)	197,168	51,443 円	195,489	48,210 円	3,233 円
外来	外来収益(千円)	4,810,099		4,184,413		
	年延看護師数(人)	130,720	36,797 円	130,149	32,151 円	4,646 円
入院+外来		88,240 円		80,361 円		7,879 円

(注) 入院、外来を合計した看護師1人当たりの診療単価は、前年度比7,879円の増となった。

ウ 職員 1人当たりの医業収益（年間）

算式	令和3年度		令和2年度		比較増減
医業収益（千円）	16,017,025		14,584,258		
損益勘定職員数（人）	898	17,836 千円	898	16,241 千円	1,596 千円

(注)

- 1 職員数には、特別職である企業長を含む。
- 2 職員 1人当たりの医業収益は、前年度比159万 6千円の増となった。

エ 入院外来収益内訳表

(単位：千円、%)

区分	令和3年度		令和2年度		増減額	伸び率
	金額	構成比	金額	構成比		
入院	入院料	4,680,689	46.1	4,427,981	47.0	252,708
	処置・手術	3,022,657	29.8	2,672,529	28.4	350,128
	検査	565,711	5.6	471,795	5.0	93,916
	注射	314,159	3.1	348,005	3.7	△ 33,846
	放射線	259,801	2.6	243,916	2.6	15,886
	給食	216,150	2.1	203,716	2.2	12,434
	投薬	116,259	1.1	119,302	1.3	△ 3,042
	その他	967,511	9.5	937,250	9.9	30,260
	計	10,142,937	100.0	9,424,493	100.0	718,444
外来	注射	1,363,311	28.3	1,277,903	30.5	85,408
	検査	1,013,955	21.1	853,242	20.4	160,712
	放射線	749,757	15.6	672,741	16.1	77,016
	処置・手術	579,888	12.1	506,284	12.1	73,604
	再診料	160,647	3.3	134,798	3.2	25,850
	初診料	93,054	1.9	76,056	1.8	16,998
	投薬	77,135	1.6	61,513	1.5	15,622
	その他	772,352	16.1	601,876	14.4	170,476
	計	4,810,099	100.0	4,184,413	100.0	625,686
入院・外来 計		14,953,036	-	13,608,905	-	1,344,130
						9.9

(注)

- 1 入院収益は、後方病院等と連携した退院促進による在院日数の短縮化や回転率向上の取組等により、前年度比 7億1,844万 4千円 (7.6%) の増となった。
- 2 外来収益は、積極的に紹介患者を受け入れたこと等により、前年度比 6億2,568万 6千円 (15.0%) の増となった。

オ その他医業収益の状況

(単位 : 千円、 %)

区分	令和3年度	令和2年度	増減額	伸び率
医療相談収益	414,655	348,715	65,940	18.9
公衆衛生活動収益	183,540	169,053	14,487	8.6
室料差額収益	54,791	96,912	△ 42,121	△ 43.5
受託検査施設利用収益	1,549	1,724	△ 175	△ 10.1
その他医業収益	78,001	69,138	8,863	12.8
合計	732,536	685,541	46,994	6.9

(注) その他医業収益の主なものは、次のとおりである。

- ・ 医療相談収益
 - ・ 人間ドック (日帰り 11,682件、1泊 12件) 3億9,252万3千円
 - ・ 脳ドック (309件) 969万1千円
 - ・ P E Tがん検診 (94件) 571万3千円
- ・ 公衆衛生活動収益
 - ・ 一般健康診断 5,050万8千円
 - ・ 予防接種 3,779万3千円
 - ・ 妊産婦健診 3,615万円
- ・ その他医業収益
 - ・ 文書料 4,034万7千円
 - ・ 新生児介補料 1,273万円
 - ・ 病衣使用料 883万3千円

(3) 医業費用の状況

ア 納入費の状況

(単位：千円、%)

区分	令和3年度	令和2年度	増減額	伸び率
医業収益 ①	16,017,025	14,584,258	1,432,767	9.8
医業費用 ②	17,298,366	16,491,106	807,261	4.9
給与費 ③	9,615,040	9,424,811	190,229	2.0
うち退職給付引当金	779,144	752,049	27,095	3.6
対医業収益比 (③÷①)	60.0	64.6	-	-
対医業費用比 (③÷②)	55.6	57.2	-	-

(注)

- 対医業収益比は、前年度から4.6ポイント下がり、60.0%となった。
- 給与費が前年度から2.0%増加した要因は、新型コロナウイルス感染症患者に対応した職員に対する特殊勤務手当の増加等による。

(ア) 職員数の状況（各年度3月31日現在）

(単位：人)

	医師	医療技術員	看護師	事務部門	技能労務部門	計	会計年度任用職員	合計
令和3年度	101	176	531	64	26	898	257	1,155
令和2年度	102	173	533	64	26	898	250	1,148
増減	△1	3	△2	0	0	0	7	7

(注) 職員数は、医療技術員3人、会計年度任用職員7人が増員となり、医師1人、看護師2人が減員となり、全体で7人の増員となった。

(イ) 医師の推移（年間平均在職者数）

(単位：人)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比較 増減
医師年間平均在職者数	101.0	96.8	98.7	101.2	103.3	2.1

(注) 医師の年間平均在職者数は、前年度から2.1人増加し、103.3人となった。

イ 材料費の状況

(単位：千円、%)

	令和3年度		令和2年度		増減額
	金額	構成比	金額	構成比	
材料費	4,005,639	100.0	3,469,346	100.0	536,292
薬品費	2,181,237	54.5	1,899,727	54.8	281,510
診療材料費	1,777,052	44.4	1,526,893	44.0	250,159
医療消耗備品費	40,514	1.0	36,825	1.1	3,689
給食材料費	6,835	0.2	5,901	0.2	934

(注) 材料費は、前年度比5億3,629万2千円増の40億563万9千円となった。増加要因は、高額な薬剤を使用する患者や手術件数の増加等による薬品費及び診療材料費の増である。

ウ 経費の状況

(単位：千円、%)

	令和3年度		令和2年度		増減額
	金額	構成比	金額	構成比	
経費	2,370,752	100.0	2,312,885	100.0	57,867
委託料	1,419,995	59.9	1,370,930	59.3	49,064
賃借料	314,133	13.3	306,296	13.2	7,838
光熱水費	197,433	8.3	183,016	7.9	14,417
負担金	112,422	4.7	135,396	5.9	△22,974
その他	326,769	13.8	317,247	13.7	9,522

(注)

- 1 経費は、前年度比5,786万7千円増の23億7,075万2千円となった。増加要因は、システム保守料増に伴う委託料の増、購入単価増に伴う光熱水費や燃料費の増等である。
- 2 主な委託業務は、次のとおりである。
 - ・医療機器保守業務 3億182万4千円
 - ・医事業務 2億7,772万8千円
 - ・施設設備保守業務 1億9,703万7千円
 - ・給食業務 1億9,678万7千円

4 財政の状態

(単位：千円、%)

区分		令和3年度		令和2年度		増減額	伸び率
		金額	構成比	金額	構成比		
資産	固定資産	13,971,027	55.4	14,913,756	68.8	△942,729	△ 6.3
	流動資産	11,256,120	44.6	6,752,218	31.2	4,503,901	66.7
資産合計		25,227,147	100.0	21,665,974	100.0	3,561,172	16.4
負債	固定負債	15,964,086	63.3	16,554,357	76.4	△590,272	△ 3.6
	流動負債	3,024,748	12.0	3,284,188	15.2	△259,440	△ 7.9
	繰延収益	877,742	3.5	790,060	3.6	87,682	11.1
	計	19,866,577	78.8	20,628,606	95.2	△762,029	△ 3.7
資本	資本金	1,302,075	5.2	1,302,075	6.0	0	0
	剰余金	4,058,496	16.1	△264,706	△ 1.2	4,323,202	-
	資本剰余金	121,735	0.5	97,531	0.5	24,204	24.8
	利益剰余金	3,936,761	15.6	△362,237	△ 1.7	4,298,998	-
	計	5,360,570	21.2	1,037,368	4.8	4,323,202	416.7
負債資本合計		25,227,147	100.0	21,665,974	100.0	3,561,172	16.4

(1) 資産の状態

資産合計は、前年度比35億6,117万2千円増の252億2,714万7千円となった。

【主な増減項目】

- ・固定資産（減価償却の実施による）

建物 94億4,051万9千円 (5億323万8千円減)

- ・無形固定資産

ソフトウェア 5億4,922万1千円 (1億8,257万9千円減)

- ・流動資産

現金預金 79億7,849万3千円 (50億523万9千円増)

未収金 29億6,061万2千円 (5億2,352万5千円減)

貯蔵品回転率

(単位：円、回)

算式	令和3年度		令和2年度		比較
期首貯蔵+当年度購入一期末貯蔵 (期首貯蔵+期末貯蔵) ÷ 2	4,013,860,258 266,785,814	15.0	3,474,693,371 222,509,058	15.6	△ 0.6

(注) 貯蔵品回転率は、前年度比0.6回減の15.0回となった。

(2) 負債の状態

負債合計は、前年度比 7 億6, 202万 9 千円減の198億6, 657万 7 千円となった。

【主な増減項目】

・ 固定負債

企業債	137億5, 753万 8 千円	(9 億6, 084万 1 千円減)
引当金	22億654万 8 千円	(4 億2, 791万 9 千円増)

・ 流動負債

未払金	15億5, 076万 6 千円	(1 億2, 589万円減)
-----	-----------------	-----------------

(3) 資本の状態

資本金は、前年度と同額の13億207万 5 千円となった。

資本剰余金は、前年度比2, 420万 4 千円増の 1 億2, 173万 5 千円となった。

利益剰余金は、前年度繰越欠損金 3 億6, 223万 7 千円に当年度純利益42億9, 899万 8 千円を加え、39億3, 676万 1 千円となった。

資本金と剰余金を合わせた資本合計は、前年度比43億2, 320万 2 千円増の53億6, 057万円となった。

5 未処分利益剰余金の処理について

当年度未処分利益剰余金39億3, 676万 1 千円については、全額を繰越利益剰余金として繰り越した。

第6 キャッシュ・フロー計算書

1 業務活動によるキャッシュ・フロー

(単位：千円)

項目	令和3年度	令和2年度	増 減
1 当年度純損益	4,298,998	1,230,796	3,068,202
2 減価償却費	1,241,329	1,226,980	14,349
3 固定資産除却費	2,034	6,993	△ 4,959
4 固定資産売却損益	△ 1,274	0	△ 1,274
5 非資金性過年度損益修正損	2,250	0	2,250
6 長期貸付金貸倒引当金の増減額	9,890	8,280	1,610
7 長期前払消費税勘定償却	17,999	16,080	1,918
8 長期前受金戻入額	△ 369,119	△ 316,958	△ 52,161
9 資本費繰入収益	△ 332,293	△ 347,218	14,925
10 受取利息及び受取配当金	△ 36	△ 60	24
11 支払利息	215,124	223,557	△ 8,433
12 未収金の増減額	253,031	△ 855,028	1,108,059
13 たな卸資産の増減額	△ 11,020	△ 77,534	66,514
14 前払費用の増減額	0	△ 3,909	3,909
15 前払金の増減額	△ 11,167	△ 286	△ 10,881
16 退職給付引当金の増減額	427,919	381,825	46,093
17 賞与引当金の増減額	△ 43,897	△ 39,232	△ 4,665
18 法定福利費引当金の増減額	△ 15,243	△ 11,025	△ 4,218
19 未収金貸倒引当金の増減額	△ 15,343	△ 2,496	△ 12,847
20 未払金の増減額	△ 88,855	454,456	△ 543,311
小計	5,580,327	1,895,222	3,685,105
1 利息及び配当金の受取額	36	60	△ 24
2 利息の支払額	△ 215,124	△ 223,557	8,433
業務活動によるキャッシュ・フロー	5,365,239	1,671,726	3,693,514

2 投資活動によるキャッシュ・フロー

1 有形固定資産の取得による支出	△ 352,691	△ 317,972	△ 34,719
2 有形固定資産の売却による収入	1,856	0	1,856
3 無形固定資産の取得による支出	△ 12,462	△ 9,606	△ 2,856
4 補助金等による収入	400,858	16,044	384,814
5 繰入金による収入（他会計負担金）	686,431	696,490	△ 10,059
6 長期貸付金の貸付による支出	△ 1,350	△ 3,180	1,830
7 長期貸付金の返還による収入	9,958	7,472	2,486
投資活動によるキャッシュ・フロー	732,600	389,248	343,352

3 財務活動によるキャッシュ・フロー

1 建設改良費等の財源に充てるための企業債による収入	84,600	24,000	60,600
2 建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出	△ 1,119,851	△ 1,155,461	35,610
3 長期未払金の返済による支出	△ 57,349	△ 89,425	32,076
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,092,600	△ 1,220,886	128,286

資金増減額	5,005,239	840,088	4,165,152
-------	-----------	---------	-----------

資金期首残高	2,973,254	2,133,166	840,088
--------	-----------	-----------	---------

資金期末残高	7,978,493	2,973,254	5,005,239
--------	-----------	-----------	-----------

キャッシュ・フロー計算書は、病院事業会計における純損益から、資産の増減を反映させ、減価償却費など、非資金項目を調整した「間接法」で作成し、実質資金収支（キャッシュ・フロー）を示したものである。

なお、本年度の業務活動によるキャッシュ・フローは、53億6,523万9千円プラス、投資活動によるキャッシュ・フローは、7億3,260万円プラス、財務活動によるキャッシュ・フローは、10億9,260万円マイナスとなった。

以上により、資金期末残高は、79億7,849万3千円となった。

第7 参考資料

附表1

最近3カ年の入院・外来 診療科別患者数、構成比及びすう勢比率

(単位:人、%)

区分		入院				外来			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	対前年度差・伸び率	令和元年度	令和2年度	令和3年度	対前年度差・伸び率
内科	患者数	15,068	13,959	13,326	△633	48,879	50,058	44,005	△6,053
	構成比	9.9	10.7	9.7		16.8	18.6	16.1	
	すう勢比率	100.0	92.6	88.4	△4.5	100.0	102.4	90.0	△12.1
脳神経内科	患者数	7,409	7,028	7,846	818	10,393	10,636	10,784	148
	構成比	4.9	5.4	5.7		3.6	3.9	3.9	
	すう勢比率	100.0	94.9	105.9	11.6	100.0	102.3	103.8	1.4
呼吸器内科	患者数	16,455	15,219	16,202	983	12,462	12,315	12,022	△293
	構成比	10.8	11.6	11.8		4.3	4.6	4.4	
	すう勢比率	100.0	92.5	98.5	6.5	100.0	98.8	96.5	△2.4
消化器内科	患者数	14,772	9,872	9,331	△541	16,264	11,424	11,664	240
	構成比	9.7	7.5	6.8		5.6	4.2	4.3	
	すう勢比率	100.0	66.8	63.2	△5.5	100.0	70.2	71.7	2.1
循環器内科	患者数	18,967	16,451	16,362	△89	18,584	17,591	16,976	△615
	構成比	12.5	12.6	11.9		6.4	6.5	6.2	
	すう勢比率	100.0	86.7	86.3	△0.5	100.0	94.7	91.3	△3.5
外科	患者数	11,735	11,451	12,074	623	17,864	17,902	17,846	△56
	構成比	7.7	8.7	8.8		6.2	6.6	6.5	
	すう勢比率	100.0	97.6	102.9	5.4	100.0	100.2	99.9	△0.3
小児外科	患者数	0	0	0	0	66	44	188	144
	構成比	0	0	0		0.0	0.0	0.1	
	すう勢比率	100.0	-	-	0	100.0	66.7	284.8	327.3
呼吸器外科	患者数	0	0	0	0	323	224	252	28
	構成比	0	0	0		0.1	0.1	0.1	
	すう勢比率	100.0	-	-	0	100.0	69.3	78.0	12.5
整形外科	患者数	18,761	15,263	18,081	2,818	20,744	20,505	18,518	△1,987
	構成比	12.3	11.7	13.1		7.1	7.6	6.8	
	すう勢比率	100.0	81.4	96.4	18.5	100.0	98.8	89.3	△9.7
リウマチ科	患者数	59	0	0	0	219	181	371	190
	構成比	0.0	0	0		0.1	0.1	0.1	
	すう勢比率	100.0	-	-	0	100.0	82.6	169.4	105.0
脳神経外科	患者数	14,722	11,754	13,361	1,607	6,899	5,567	5,071	△496
	構成比	9.7	9.0	9.7		2.4	2.1	1.9	
	すう勢比率	100.0	79.8	90.8	13.7	100.0	80.7	73.5	△8.9
小児科	患者数	5,129	4,755	4,787	32	18,489	14,790	16,000	1,210
	構成比	3.4	3.6	3.5		6.4	5.5	5.8	
	すう勢比率	100.0	92.7	93.3	0.7	100.0	80.0	86.5	8.2
産婦人科	患者数	9,265	7,186	7,748	562	18,390	15,535	15,977	442
	構成比	6.1	5.5	5.6		6.3	5.8	5.8	
	すう勢比率	100.0	77.6	83.6	7.8	100.0	84.5	86.9	2.8
泌尿器科	患者数	7,541	5,911	5,964	53	12,063	11,196	11,100	△96
	構成比	5.0	4.5	4.3		4.2	4.1	4.1	
	すう勢比率	100.0	78.4	79.1	0.9	100.0	92.8	92.0	△0.9
皮膚科・皮膚腫瘍科	患者数	3,029	2,266	2,744	478	15,522	13,806	15,525	1,719
	構成比	2.0	1.7	2.0		5.3	5.1	5.7	
	すう勢比率	100.0	74.8	90.6	21.1	100.0	88.9	100.0	12.5
眼科	患者数	2,360	2,826	3,437	611	19,786	17,980	19,224	1,244
	構成比	1.6	2.2	2.5		6.8	6.7	7.0	
	すう勢比率	100.0	119.7	145.6	21.6	100.0	90.9	97.2	6.9
耳鼻いんこう科	患者数	4,672	4,523	3,624	△899	12,670	11,920	12,304	384
	構成比	3.1	3.5	2.6		4.4	4.4	4.5	
	すう勢比率	100.0	96.8	77.6	△19.9	100.0	94.1	97.1	3.2
放射線診断科	患者数	4	23	18	△5	8,263	7,880	7,258	△622
	構成比	0.0	0.0	0.0		2.8	2.9	2.7	
	すう勢比率	100.0	575.0	450.0	△21.7	100.0	95.4	87.8	△7.9
麻酔科	患者数	0	0	21	21	4,058	4,420	4,694	274
	構成比	0	0	0.0		1.4	1.6	1.7	
	すう勢比率	100.0	-	-	皆増	100.0	108.9	115.7	6.2
リハビリテーション科	患者数	0	0	40	40	68	43	7,842	7,799
	構成比	0	0	0.0		0.0	0.0	2.9	
	すう勢比率	100.0	-	-	皆増	100.0	63.2	11,532.4	18,137.2
歯科口腔外	患者数	1,434	1,721	1,814	93	10,924	12,359	12,582	223
	構成比	0.9	1.3	1.3		3.8	4.6	4.6	
	すう勢比率	100.0	120.0	126.5	5.4	100.0	113.1	115.2	1.8
精神科	患者数	0	0	0	0	55	62	0	△62
	構成比	0	0	0		0.0	0.0	0	
	すう勢比率	100.0	-	-	0	100.0	112.7	-	皆減
救急科	患者数	582	708	770	62	17,182	13,349	13,447	98
	構成比	0.4	0.5	0.6		5.9	4.9	4.9	
	すう勢比率	100.0	121.6	132.3	8.8	100.0	77.7	78.3	0.7
計	患者数	151,964	130,916	137,550	6,634	290,167	269,787	273,650	3,863
	構成比	100.0	100.0	100.0		100.0	100.0	100.0	
	すう勢比率	100.0	86.1	90.5	5.1	100.0	93.0	94.3	1.4

(注) すう勢比率は、令和元年度を基準年度とした。

附表2

最近3カ年の診療科別収入の構成比と患者1人当たり収入金額(消費税抜き)

区分	診療取入(単位:千円、%)							
	令和元年度		令和2年度		令和3年度		対前年度	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	比較増減	伸び率
内科	入院	719,355		753,231		711,296		△41,935 △5.6
	外来	894,977		985,565		1,009,857		24,292 2.5
	計	1,614,332	11.3	1,738,796	12.8	1,721,154	11.5	△17,642 △1.0
脳神経内科	入院	381,846		387,499		454,718		67,219 17.3
	外来	140,440		194,008		255,058		61,050 31.5
	計	522,285	3.7	581,507	4.3	709,776	4.7	128,269 22.1
呼吸器内科	入院	811,752		857,928		972,063		114,136 13.3
	外来	335,580		377,580		433,671		56,091 14.9
	計	1,147,332	8.0	1,235,507	9.1	1,405,734	9.4	170,227 13.8
消化器内科	入院	766,249		543,778		529,925		△13,853 △2.5
	外来	342,164		306,906		365,515		58,609 19.1
	計	1,108,412	7.8	850,685	6.3	895,440	6.0	44,756 5.3
循環器内科	入院	1,867,704		1,746,692		1,776,463		29,772 1.7
	外来	254,237		258,392		267,270		8,878 3.4
	計	2,121,941	14.9	2,005,084	14.7	2,043,733	13.7	38,649 1.9
外科	入院	951,870		936,412		1,008,250		71,837 7.7
	外来	445,717		455,552		465,242		9,690 2.1
	計	1,397,587	9.8	1,391,964	10.2	1,473,491	9.9	81,527 5.9
小児外科	入院	1		0		0		0 -
	外来	1,512		63		717		654 1,031.8
	計	1,513	0.0	63	0.0	717	0.0	654 1,031.8
呼吸器外科	入院	0		0		0		0 -
	外来	2,438		1,440		2,410		971 67.4
	計	2,438	0.0	1,440	0.0	2,410	0.0	971 67.4
整形外科	入院	1,210,782		1,152,457		1,341,543		189,085 16.4
	外来	168,101		141,117		151,518		10,401 7.4
	計	1,378,883	9.7	1,293,574	9.5	1,493,061	10.0	199,487 15.4
リウマチ科	入院	3,118		0		0		0 -
	外来	3,395		4,404		8,394		3,990 90.6
	計	6,513	0.0	4,404	0.0	8,394	0.1	3,990 90.6
脳神経外科	入院	1,053,805		868,169		988,464		120,295 13.9
	外来	87,806		66,614		76,768		10,154 15.2
	計	1,141,611	8.0	934,783	6.9	1,065,231	7.1	130,449 14.0
小児科	入院	318,721		334,531		325,069		△9,462 △2.8
	外来	195,231		161,138		168,486		7,348 4.6
	計	513,952	3.6	495,670	3.6	493,556	3.3	△2,114 △0.4
産婦人科	入院	678,348		560,614		632,660		72,046 12.9
	外来	118,058		116,689		139,887		23,199 19.9
	計	796,406	5.6	677,303	5.0	772,548	5.2	95,245 14.1
泌尿器科	入院	487,207		432,921		431,255		△1,666 △0.4
	外来	307,538		282,049		328,585		46,536 16.5
	計	794,745	5.6	714,970	5.3	759,841	5.1	44,871 6.3
皮膚科・皮膚腫瘍科	入院	126,949		116,247		159,280		43,034 37.0
	外来	167,436		102,003		179,461		77,458 75.9
	計	294,385	2.1	218,249	1.6	338,741	2.3	120,492 55.2
眼科	入院	188,452		259,774		336,983		77,209 29.7
	外来	230,775		167,002		216,719		49,717 29.8
	計	419,227	2.9	426,776	3.1	553,702	3.7	126,926 29.7
耳鼻咽喉科	入院	254,221		249,303		196,479		△52,824 △21.2
	外来	108,806		89,572		99,557		9,986 11.1
	計	363,027	2.5	338,874	2.5	296,036	2.0	△42,838 △12.6
放射線診断科	入院	111		3,354		3,531		177 5.3
	外来	152,659		156,838		185,060		28,221 18.0
	計	152,770	1.1	160,193	1.2	188,591	1.3	28,398 17.7
麻酔科	入院	0		0		1,077		1,077 皆増
	外来	25,330		8,156		10,031		1,875 23.0
	計	25,330	0.2	8,156	0.1	11,108	0.1	2,952 36.2
リハビリテーション科	入院	0		0		4,237		4,237 皆増
	外来	188		538		50,687		50,149 9,328.2
	計	188	0.0	538	0.0	54,924	0.4	54,386 10,116.4
歯科口腔外	入院	99,979		127,083		137,643		10,560 8.3
	外来	73,839		83,140		88,756		5,616 6.8
	計	173,818	1.2	210,224	1.5	226,399	1.5	16,176 7.7
精神科	入院	0		0		0		0 -
	外来	0		0		0		0 -
	計	0	0	0	0	0	0	0 -
救急科	入院	67,035		94,500		132,000		37,500 39.7
	外来	224,080		225,647		306,449		80,801 35.8
	計	291,115	2.0	320,147	2.4	438,448	2.9	118,302 37.0
計	入院	9,987,504	70.0	9,424,493	69.3	10,142,937	67.8	718,444 7.6
	外来	4,280,307	30.0	4,184,413	30.7	4,810,099	32.2	625,686 15.0
	計	14,267,810	100.0	13,608,905	100.0	14,953,036	100.0	1,344,130 9.9

区分		患者1人当たり収入(単位:円、%)					
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	対前年度		
内科	入院	47,741	53,960	53,377	△583	△1.1	
	外来	18,310	19,688	22,949	3,261	16.6	
	計	25,245	27,161	30,021	2,860	10.5	
脳神経内科	入院	51,538	55,136	57,955	2,819	5.1	
	外来	13,513	18,241	23,652	5,411	29.7	
	計	29,339	32,920	38,099	5,179	15.7	
呼吸器内科	入院	49,332	56,372	59,997	3,625	6.4	
	外来	26,928	30,660	36,073	5,413	17.7	
	計	39,677	44,872	49,806	4,934	11.0	
消化器内科	入院	51,872	55,083	56,792	1,709	3.1	
	外来	21,038	26,865	31,337	4,472	16.6	
	計	35,714	39,946	42,650	2,704	6.8	
循環器内科	入院	98,471	106,175	108,573	2,398	2.3	
	外来	13,680	14,689	15,744	1,055	7.2	
	計	56,508	58,900	61,303	2,403	4.1	
外科	入院	81,114	81,776	83,506	1,730	2.1	
	外来	24,951	25,447	26,070	623	2.4	
	計	47,217	47,422	49,248	1,826	3.9	
小児外科	入院	0	0	0	0	0	
	外来	22,911	1,440	3,814	2,374	164.9	
	計	22,925	1,440	3,814	2,374	164.9	
呼吸器外科	入院	0	0	0	0	0	
	外来	7,549	6,428	9,565	3,137	48.8	
	計	7,549	6,428	9,565	3,137	48.8	
整形外科	入院	64,537	75,507	74,196	△1,311	△1.7	
	外来	8,104	6,882	8,182	1,300	18.9	
	計	34,904	36,166	40,795	4,629	12.8	
リウマチ科	入院	52,849	0	0	0	0	
	外来	15,503	24,331	22,625	△1,706	△7.0	
	計	23,429	24,331	22,625	△1,706	△7.0	
脳神経外科	入院	71,580	73,862	73,981	119	0.2	
	外来	12,727	11,966	15,139	3,173	26.5	
	計	52,801	53,968	57,793	3,825	7.1	
小児科	入院	62,141	70,354	67,907	△2,447	△3.5	
	外来	10,559	10,895	10,530	△365	△3.4	
	計	21,761	25,360	23,743	△1,617	△6.4	
産婦人科	入院	73,216	78,015	81,655	3,640	4.7	
	外来	6,420	7,511	8,756	1,245	16.6	
	計	28,798	29,810	32,563	2,753	9.2	
泌尿器科	入院	64,608	73,240	72,310	△930	△1.3	
	外来	25,494	25,192	29,602	4,410	17.5	
	計	40,540	41,794	44,529	2,735	6.5	
皮膚科・皮膚腫瘍科	入院	41,911	51,300	58,047	6,747	13.2	
	外来	10,787	7,388	11,559	4,171	56.5	
	計	15,869	13,579	18,542	4,963	36.5	
眼科	入院	79,853	91,923	98,046	6,123	6.7	
	外来	11,664	9,288	11,273	1,985	21.4	
	計	18,930	20,512	24,434	3,922	19.1	
耳鼻いんこう科	入院	54,414	55,119	54,216	△903	△1.6	
	外来	8,588	7,514	8,091	577	7.7	
	計	20,933	20,609	18,586	△2,023	△9.8	
放射線診断科	入院	27,707	145,836	196,185	50,349	34.5	
	外来	18,475	19,903	25,497	5,594	28.1	
	計	18,479	20,270	25,920	5,650	27.9	
麻酔科	入院	0	0	51,269	51,269	皆増	
	外来	6,242	1,845	2,137	292	15.8	
	計	6,242	1,845	2,356	511	27.7	
リハビリテーション科	入院	0	0	105,928	105,928	皆増	
	外来	2,761	12,502	6,463	△6,039	△48.3	
	計	2,761	12,502	6,968	△5,534	△44.3	
歯科口腔外	入院	69,720	73,843	75,878	2,035	2.8	
	外来	6,759	6,727	7,054	327	4.9	
	計	14,065	14,931	15,727	796	5.3	
精神科	入院	0	0	0	0	0	
	外来	8	0	0	0	0	
	計	8	0	0	0	0	
救急科	入院	115,180	133,474	171,428	37,954	28.4	
	外来	13,042	16,904	22,789	5,885	34.8	
	計	16,388	22,775	30,840	8,065	35.4	
計	入院	65,723	71,989	73,740	1,751	2.4	
	外来	14,751	15,510	17,578	2,068	13.3	
	計	32,271	33,963	36,364	2,401	7.1	

(注) 計は、入院及び外来収益を年延患者数で除したものである。

附表3
財務分析表

分析項目	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	算式	説明
固定資産構成比率	%	77.1	68.8	55.4	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}} \times 100$	固定資産と資産総額との割合を表すもので、この比率の高いことは公営企業の特徴であるが、低いほうが望ましい。
固定負債構成比率	%	84.9	76.4	63.3	$\frac{\text{固定負債}}{\text{負債資本合計}} \times 100$	固定負債と総資本との割合を表すもので、この比率の低いほうが望ましい。
自己資本構成比率	%	△1.1	4.8	21.2	$\frac{\text{資本金} + \text{剰余金}}{\text{負債資本合計}} \times 100$	自己資本と総資本の割合を表すもので、この比率の高いほうが望ましい。
固定資産対長期資本比率	%	100.9	86.1	55.0	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{固定負債}} \times 100$	固定資産と長期資本（資本金と固定負債との合計）との割合で、資本固定化の程度を表すものであって100%以下であることが望ましい。
固定比率	%	△7,240.3	1,437.7	260.6	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金} + \text{剰余金}} \times 100$	固定資産と自己資本との割合で、資本固定化の程度を表すものであって、100%以下であることが望ましい。
流动比率	%	165.4	205.6	372.1	$\frac{\text{流动資産}}{\text{流动負債}} \times 100$	流动資産と流动負債との割合で、流动負債の支払能力の程度を表す比率であって、200%以上であることが望ましい。
当座比率	%	157.9	196.6	361.7	$\frac{\text{現金預金} + \text{未収金}}{\text{流动負債}} \times 100$	当座資産と流动負債との割合で、流动負債の支払能力の程度を表す比率であって、100%以上であることが望ましい。
現金預金比率	%	75.3	90.5	263.8	$\frac{\text{現金預金}}{\text{流动負債}} \times 100$	現金・預金と流动負債との割合で、流动負債の支払能力の程度を表す比率であって、20%以上であることが望ましい。
自己資本回転率	回	△338.3	35.6	5.0	$\frac{\text{医業収益}}{(\text{期首資本金} + \text{剰余金} + \text{期末資本金} + \text{剰余金}) \div 2} \times 100$	自己資本の利用度を表すもので、原則として回転率の高いことが必要である。
固定資産回転率	回	1.0	1.0	1.1	$\frac{\text{医業収益}}{(\text{期首固定資産} + \text{期末固定資産}) \div 2} \times 100$	固定資産の利用度を表すもので、収益性の観点からは回転率の高いほうがよいが、健全性の上からいえば回転率の高いのはあまりよくない。
減価償却率	%	7.9	9.1	9.7	$\frac{\text{当年度減価償却費}}{\text{期末償却資産} + \text{当年度減価償却費}} \times 100$	固定資産の償却率を表すものである。
流动資産回転率	回	3.2	2.6	1.8	$\frac{\text{医業収益}}{(\text{期首流动資産} + \text{期末流动資産}) \div 2} \times 100$	流动資産の使用、利用度を表すものである。
未収金回転率	回	6.6	6.3	6.8	$\frac{\text{医業収益}}{(\text{期首医業未収金} + \text{期末医業未収金}) \div 2} \times 100$	未収金の回収度（回収率）を表すもので、高いほど回転が早く、未収金が未回収のまま残留する期間が短いことを意味する。
総資本利益率	%	△2.0	5.8	18.3	$\frac{\text{当年度純利益}}{(\text{期首負債資本} + \text{期末負債資本}) \div 2} \times 100$	当期の純利益（純損失）と総資本との割合で、企業全体（総資本）の収益性を表すものである。
総収益対総費用比率	%	97.7	107.0	123.6	$\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$	当期の総収益と総費用との割合で、営業活動の能率を表すものであって、この比率の高いほうが望ましい。
医業収益対医業費用比率	%	94.5	88.4	92.6	$\frac{\text{医業収益}}{\text{医業費用}} \times 100$	当期の医業収益と医業費用との割合で、営業活動の能率を表すものであって、この比率の高いほうが望ましい。
利子負担率	%	1.4	1.4	1.4	$\frac{\text{支払利息}}{(\text{期首企業債} - \text{時時借入金} + \text{期末企業債} - \text{時時借入金}) \div 2} \times 100$	支払利息と負債との割合を表すもので、この比率の低いほうが望ましい。
企業債償還元金対減価償却額比率	%	79.3	94.2	90.2	$\frac{\text{企業債償還元金}}{\text{減価償却費}} \times 100$	企業債償還元金とその償還財源に充当すべき減価償却費との割合を表すもので、この比率の低いことが望ましい。